

## 2学期 終業式

先程、「八福神」さんより、置き傘の寄付をいただきました。先日は「清水商店」さんより文房具の寄付もいただきました。これもみなさんが日々、頑張っている姿を見て、地域の方々が「何かしてあげたい！」とと思っていただけたのかもしれないかもしれません。大切に使いましょう。

12月21日土曜日は冬至でした。冬至とは1年で最も昼が短く、夜が長い日です。実際には、これから寒くなり本格的な冬が始まるという感じですが、逆に冬至の次の日からは、だんだんと昼の時間が増えて、太陽が少しずつ元気になっていくともいえるので、「一陽来復」といって、冬至を境に、運がよくなっていくとも考えられています。どんどん運気が上がっていくといいですね。

今日は「一年の計は元旦にあり」というお話をします。これは、「目標を決めることの大切さ」「物事は最初が肝心」という意味を表しています。校長先生は是非、冬休みの間に来年一年間の目標をじっくり考え、それを実現するにはどうすればいいかを考え、すぐに実行してほしいと思います。校長先生が中学生だった時のお話をします。校長先生はとても国語が苦手でした。読書は好きだったのですが、どうもテストとなると点数が伸びません。中学2年生まではずっとクラス平均を下回っていました。そんな時、国語が得意の姉から、「日記を書いてみれば？」とアドバイスを受けました。それで、中学2年生の冬から日記を書くことを始めました。最初は2～3日に1回、その日あったこととその時の気持ちをほんの2、3行書くことから始めました。すると、国語の成績が中学校3年生から急に伸びるようになりました。きっと文章を組み立てることができるようになったんだと思います。それよりももっと良かったことがありました。それは日記を書くことで、その日1日を振り返ったり、気持ちの整理をつけたり、明日の予定を考えることができるようになったことです。いわば、もう一人の自分が生まれてきたみたいな感覚になったことです。中学生から始めた日記ですが、今でも続けており、校長先生の良い相談相手になってくれています。思えば、中学2年生「一年の計」が今でも校長先生を助けているのです。みなさんも将来の自分を助けてくれるかもしれない「一年の計」をぜひ、探してください。

これで校長先生の終業式のお話を終わります。